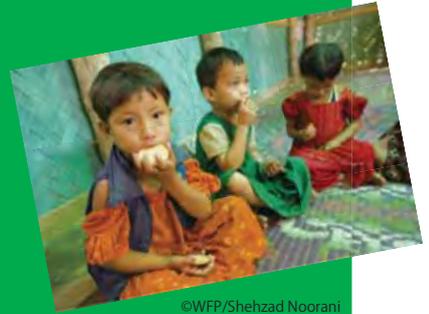




特集 国際社会への貢献

世界に笑顔をお届けするために



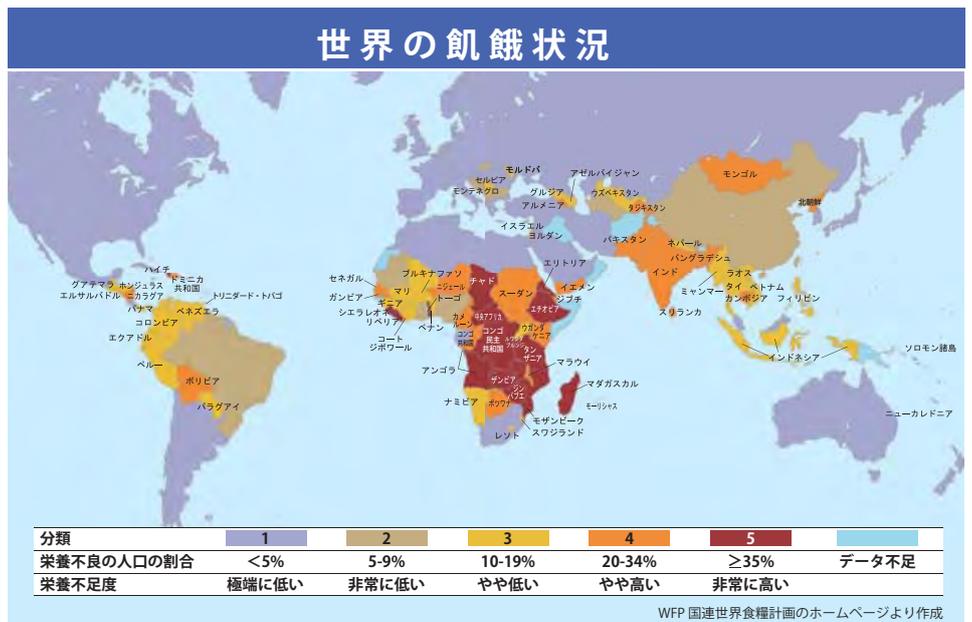
©WFP/Shehzad Noorani

コープは商品を通して組合員のくらしと健康を守ってきました。今後もコープの事業を通じて、消費者・組合員をはじめさらに多くの人々に、よりくらしやすい社会・環境を広げていきたいと願っています。そんな思いで始めた、世界に向けたコープの取り組みをご紹介します。

牛乳1本からできる国際支援「みるくぼきん」

飢餓に苦しむ 途上国の子どもたち

日本の食料自給率はカロリーベースで40%です。60%は外国からの輸入に頼っています。世界全体で見ると、すべての人々が食べるのに十分な食べ物がつくられています。しかし、途上国では1日に1度の食事を食べることもできない家庭がたくさんあります。慢性的な飢えに苦しむ人は、世界で10億人(世界人口の6分の1)にもなります。このうち3.5億人以上が子どもたちです。



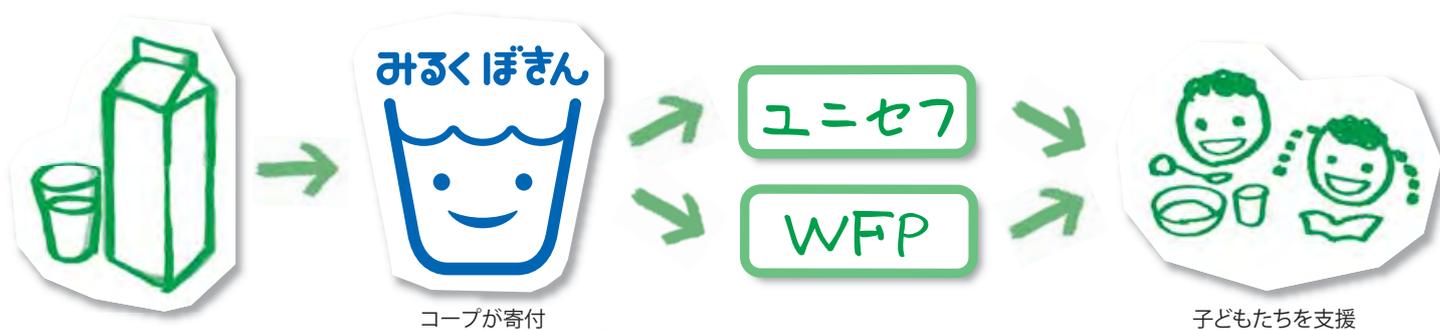
2008年から募金活動をスタート

途上国の子どもたちを救いたい、少しでも役に立ちたいという思いから、2008年、コープは「みるくぼきん」を始めました。毎年3か月間の指定期間を設け、その間のCO・OPマークの牛乳の販売数に応じて、牛乳1リットルにつき1円をユニセフ(国連児童基金)とWFP(WFP 国連世界食糧計画)に寄付しています。

コープでは、より多くの組合員や職員に「みるくぼきん」を広げるために、店舗でのポスターや店内放送、おうちCO-OPの商品カタログ「お買物めも」、ホームページや機関誌でのお知らせを行いました。

組合員・職員が一緒になって「みるくぼきん」に取り組んだ結果、3年間で18,810,082円の寄付を行うことができました。





「みるくぼきん」の対象となるCO・OPマークの牛乳

みるくぼきんとは

CO・OPマークの牛乳をご購入いただくと、1リットルにつき1円をコープが寄付する取り組みです。寄付金は、ユニセフのアフリカ教育支援プログラムとWFPの学校給食プログラムを通じて、世界の子どもたちを支援する活動に役立てられます。

ユニセフの「アフリカの教育支援プログラム」

ルワンダ、アンゴラ、ジンバブエ、マラウイ、モザンビークおよび南アフリカに4,000の学校の建設と改修を行い、1,800の学校にきれいな水を供給し、先生を35,000人養成するプログラム。

ユニセフ



開発途上国の子どもたちを対象とした総合支援を行っています。150以上の国と地域で子どもたちの生存と健やかな発達を守るため、保健、栄養、水と衛生、教育などの支援事業をその国の政府やNGO、コミュニティと協力しながら実施しています。

「みるくぼきん」の使いみち 1

子どもに優しい学校をマラウイにつくろう。

マラウイという国を知っていますか。アフリカ大陸南東部の内陸にあり北海道と九州を合わせたくらいの大きさで、世界遺産にもなっているマラウイ湖という大きな湖(国の面積の20%も占める)がある共和国です。

コープの2010年度「みるくぼきん」は、ユニセフを通じてこのマラウイの学校プロジェクトに使われました。これにより、学校の教室とトイレの建設、教職員の研修、教室の机・いす、教材の支給などが実現しました。マラウイでは1994年に授業料が撤廃され、無料で初等教育を受けることができるようになりましたが、修了率が25%と低い



©UNICEF/Malawi



©UNICEF/Malawi

ことが悩みでした。特に女の子は16%とさらに低く、その大きな理由は学校のほとんどが質の悪い学習環境にあることでした。

たとえば、トイレの問題は女の子には特に重大です。プライバシーに配慮したトイレがないことは成長期の女の子にとってはとても辛いこと。学校に通うのをためらう原因にもなっているのです。「学校のトイレは大好き!」そう言って、トイレを使い、手洗いをしっかりしている子どもたち。「新しいトイレができて、それも男女別」…学校に井戸やトイレができたことで、学校にくる子どもたちも増えているとのことでした。



2010年度「みるくぼきん」贈呈式

心をこめて募金をお届け

2010年度は、6月から8月に募金活動を実施しました。そして、お寄せいただいた募金の中から、ユニセフのアフリカ児童支援プログラムとWFPのバングラデシュ学校給食プログラムに寄付しました。

■「みるくぼきん」募金額

期間	募金額	寄付先	
		ユニセフ	WFP
第1期(2008年10月～12月)	6,609,430円	5,287,544円	1,321,886円
第2期(2009年 6月～ 8月)	6,233,169円	5,000,000円	1,233,169円
第3期(2010年 6月～ 8月)	5,967,483円	4,972,902円	994,581円

WFPの「学校給食プログラム」

大豆やとうもろこし粉にビタミン・ミネラルを加えたおかゆなど栄養たっぷりの給食をWFPが提供することで、親が子どもたちを働かせるより通学させることを選ぶようになります。学校給食は子どもたちの発育を助けると同時に教育を受けられる機会を広げます。



国連唯一の食糧支援機関であり、かつ世界最大の人道支援機関です。飢餓と貧困の撲滅を使命として各地で活動を行っています。2007年には80カ国において8,619万人に330万トンの食糧支援を実施。その総支出は30億米ドルに上ります。

VOICE

コープかながわ組合員

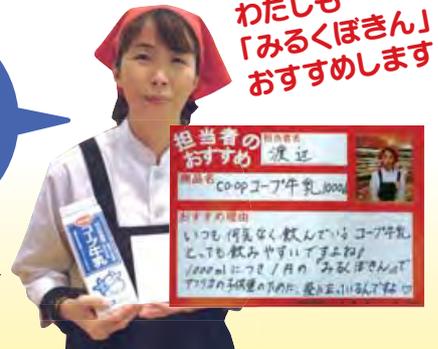
篠田 哲守さん(神奈川県相模原市)



わが家では毎週コープの牛乳を買って飲んでます。ちよっぴりですが、「みるくぼきん」を通して、世界の子どもたちを応援していることになりました。募金が世界中から一日も早く不幸な子どもたちをなくすための施策に使われ、その成果が上がるよう心から願っています。

牛乳を買うならぜひコープで、おすすめしたいです。

市民生協やまなしコープちづか店
渡辺 能子



「みるくぼきん」の使いみち 2

栄養強化ビスケットをバングラデシュの子どもたちに届けました。

世界の最貧国の一つに挙げられるバングラデシュでは、5歳未満の子どもの37% (約800万人) が低体重です。また、男女の教育格差が大きく、400万人もの子どもたちが学校に通っていません。

2010年度の「みるくぼきん」は、WFPを通じて「バングラデシュの学校給食プログラム」に使われ、1日1人あたり75グラムの栄養強化ビスケットが学校給食として配られています。このビスケットには成長に欠かせない14種のミネラル・ビタミンが配合され、子どもたちの栄養不足を補うことができます。

学校給食に使われる食品は国によって違います。その国の主食の農産物を使うことが基本となりますが、調理環境や物流状況などの状況を考慮して決められます。単に食料を配るのではなく、経済にも貢献したいからです。「学校は楽しいよ。みんなと遊べるし、勉強もできる。そ



栄養強化ビスケット



して、学校に行けばビスケットがもらえるんだ」……この給食は、非常に貧しく、教育の機会も制限されている子どもたちの栄養状態を改善するだけでなく、出席率を上げるために極めて効果的です。親も食費の負担が減るので、幼い子どもを働かせるよりも、学校へ行かせるようになります。学ぶことで子どもたちの未来が開けます。このビスケットは、子どもたちの希望なのです。



わずかな食糧が、子どもの人生を大きく変えます

©WFP/Shehzad Noorani

人・社会・自然を大切にしたい「フェアトレードバナナ」

おいしいだけじゃない、「食」の取り組み

コープの「フェアトレードバナナ」の産地、南米コロンビア。ここ10年ほどで治安は改善しつつありますが、過去の内戦の影響で故郷を離れる人も多くいました。このような人々に住居と仕事を提供し、安定した生活が送れるように、コープはバナナで応援しています。

2010年度、「フェアトレードバナナ」は490,982袋(1億4,144万円)のご利用をいただきました。その売り上げの中から2,020,020円がバナナ農園で働く生産者の組合(FLOTRABAN:バナナ農園労働者基金)に奨励金として支払われました。

このお金の使いみちは、FLOTRABANの総会で生産者自身によって決められます。コロンビア政府の支援も受けながら、2010年の奨励金はバナナ農園で働く100家族(このうち70家族は、内戦のため、もともと住んでいたところから立ち退きを余儀なくされた人たち)の住宅建設や住宅地の下水設備や、また、12月初めにコロンビア北部を襲った大雨による洪水の被害支援などに使われました。

コープの「フェアトレードバナナ」は、森や動物にも貢献しています。コロンビアは熱帯雨林を有する世界でも有数の希少生物の生息地です。自然を破壊して農園をつくるのではなく、かつて放牧地として使用されていた土地を農地に転作し、地域に自生している植物を植えるなど、生物多様性の取り組みも行っています。植物が増えることで、動物の生息地域も広がることが期待できます。

「フェアトレードバナナ」を多くの皆さまにご利用いただくことが生産者の笑顔を生み、さらに森や動物を守り育てることに繋がっているのです。



コープの「フェアトレードバナナ」

国際的なフェアトレード認証のエコサート・フェアトレードマーク



バナナ農園で働く人たちとその家族

森を育て動物を守るレインフォレストアライアンスマーク

■支援金の仕組み



バナナ1箱(13kg)の売り上げにつき、85セント(2010年までは75セント)をFLOTRABANへ寄付

フェアトレード(公平貿易)

経済的・社会的に弱い途上国の生産者に対し、その生産活動や生活が成り立つ適正な価格で継続的に取引し、自立をうながす貿易形態。

「CO・OPコアノンスマイルスクールプロジェクト」を全国の生協で取り組み中

日本ユニセフ協会とともに、アンゴラの教育環境の改善をめざすキャンペーン「CO・OPコアノン スマイルスクールプロジェクト」(日本生協連主催)を、2010年11月1日から2011年10月31日にかけて実施しています。

コープ商品のトイレットペーパー「コアノンロール」を1パック販売するごとに、1円をアンゴラ指定募金として積み立て、ユニセフがアンゴラで実施する「チャイルドフレンドリースクール(子どもにやさしい学校づくり)プロジェクト」に役立てていただきます。



コアノンロール